

【 国 語 】 内容および観点別の分析

観点	国語への関心・意欲・態度	話す聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・能力
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで読書をする児童が多い。 ・発表や長い文章を読み書きすることに苦手意識をもっている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して話を聞く力が向上してきた。伝えたいことを整理して話すことはやや不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文を構成する力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文の内容を正確に理解し、読み解く力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の習熟に個人差が大きい。語彙力を高める必要がある。
考察	低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に意欲をもって取り組むことができる児童が多い。 ・しっかりした姿勢を保ち、最後まで集中して話を聞くことに課題が見られる。 ・自分で文を読み、内容を正しく理解することについて個人差が大きい。 ・伝えたいことを順序立てて話したり、書いたりすることに苦手意識をもつ児童がいる。 ・ひらがなやカタカナ、漢字を正しく読んだり、書いたりすることについて個人差が大きい。 			
	中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・読書を好む児童が多い。 ・文の構成を意識し、文章を書くことに課題が見られる。 ・自分の考えや気持ちを表現豊かに文章に表せる児童とそうでない児童がいる。 ・何が大切なのか意識しながら聞くことに課題が見られる。 ・音読・漢字の学習に意欲的に取り組んでいる。しかし、漢字の習熟には個人差が大きい。 ・事実の読み取りから、書かれていない行間の気持ちを考えることに苦手意識がある。 ・豊かな文章の表現を感じ取り、イメージすることが難しい。 			
	高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を捉える力に課題がある。 ・話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える力に課題がある。 ・互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合うこと力に課題がある。 ・文章全体の構成を捉えて要旨を把握することを苦手とする児童がいる。 ・漢字力、語彙力に個人差がある。 			
改善策	低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く力を高めるために、話を聞く姿勢(体向ける・目を見る)や態度の指導を徹底していく。 ・スピーチの活動を取り入れ、接続語を適切に使いながら、順序だてて話すことを意識させる。 ・音読の練習に年間を通じて取り組む。 ・ペアや少人数などのグループでの話し合いの機会を意図的に設定していく。 ・視写や文章を書く課題を取り入れ、書く習慣を身に付ける。書いた文章を読み返すことを意識させる。 ・「東京都ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」、「ミライシード」を夏季・冬季の補習学習時や朝学習(ぐんぐんタイム)時に活用し、漢字の読み書き等の習熟を図る。 ・朝読書や図書の時間を通して、本に親しむ機会を増やし、語彙力を高める。 			
	中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて話す内容を整理し、適切な言葉で話すことを意識させる。 ・音読の練習に年間を通じて取り組む。学級やグループでの音読や群読などの機会を設ける。 ・文章の読み取りのポイント(文章の言葉や表現、接続詞等)を明確に指導する。 ・さまざまな文章に親しむ機会を設け、豊かな表現に触れる機会を設ける。 ・「はじめ」「中」「終わり」など、文の組み立てメモを使用し、全体の構成を考えて書くようにさせる。 ・「東京都ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」、「ミライシード」を夏季・冬季の補習学習時や朝学習(ぐんぐんタイム)時に活用し、漢字の読み書き等の習熟を図る。 ・朝読書や図書の時間を通して、本に親しむ機会を増やす。 			
	高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・辞書を活用しながら、本や新聞などを読む活動を通し、語彙力を高める。 ・自分の意見の根拠を明らかにし、他者の意見を聞きながら、比較したり考えを深めたりする活動をいろいろな場面で取り入れる。 ・文章全体の構成を視覚的に捉えさせ、事実や登場人物の気持ち、情景の描写などを文に即して丁寧に読み取る。 ・意欲的に書けるような課題設定をし、構成や表現の工夫について具体的に指導する。 ・家庭学習を習慣付け、日々の学習での定着や小テストなどを通して、漢字の読み書きの習熟を図る。 ・「東京都ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」、「ミライシード」を夏季・冬季の補習学習時や朝学習(ぐんぐんタイム)時に活用し、漢字の読み書き等の習熟を図る。 ・朝読書や図書の時間を通して、本に親しむ機会を増やす。 			

【算数】 内容および観点別の分析

観点	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
課題	・粘り強く取り組むことやよりよく問題解決することが概ねできている。	・根拠を明らかにし、筋道を立てて体系的に考えることにやや課題がある。	・基礎的、基本的な知識を活用して総合的・発展的に考察し、表現・処理することが不十分である。	・数量や図形などについての基礎的・基本的な知識は概ね理解することができている。
考察	低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的内容の定着状況に個人差がある。 ・学習したことを日常生活に活用する力が十分でない。 ・問題解決方法を表現する(記述・口頭)力が十分でない。 ・問題をじっくり読んだり考えたりしようとする力が十分でない。 		
	中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的内容の定着状況に個人差がある。 ・問題解決方法を表現する(記述・発表)力が十分ではない。 ・解決のよりよい方法を見付けようという意欲が低い。 ・四則計算の定着にやや課題がある。 		
	高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・課題をとらえ、解決できるまで筋道を立てて考える力が伸びている。 ・既習事項を利用して、自分の力で解決しようする意欲に課題が見られる。 ・作図や四則混合計算、数量関係を捉えることが苦手な面がある。 ・学習内容の理解と定着に個人差がある。 		
改善策	低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の算数の学習の時間に、既習事項の確認をし、定着を図る。また、計算領域は日常的に家庭学習としても取り組み、習熟を図る。 ・文章の意味を読み取り、学習課題を把握し、自分なりに解決の見通しをもつ力を高める。 ・具体物や半具体物を活用した活動を通して、数量についてのイメージ化を図る。 ・「どうしてそうなるのか」という問いを大切に指導を行う。自分の考えを言葉や式、簡単な図などを用いて表現する活動を意図的に取り入れる。 ・自分の考えをわかりやすく話したり、自分の考えとの相違点や共通点を考えながら友だちの考えを聞いたりする場面を意図的に設ける。 ・発展問題の学習では児童の理解度に応じて取り上げ、わかる喜びや問題を解く面白さを味わわせる。 ・「東京ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」、「ミライシード」を夏季・冬季の補習学習時や朝学習(ぐんぐんタイム)時に活用し、計算力の向上を図る。 		
	中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を把握し、自分なりに解決の見通しを持つ活動を多く取り入れる。 ・算数的な活動を通して、数量についてのイメージ化を図る(日常的なものと比較するなど)。 ・自分の考えを言葉や式、図などを用いて表現する活動を多く取り入れる。 ・具体物や半具体物を必要に応じて取り入れることで、より理解しやすくする。 ・自分の考えをわかりやすく話したり、自分の考えとの相違点や共通点を考えながら友だちの考えを聞いたりする場面を意図的に設ける。 ・習熟度別指導では、理解度に応じて発展問題も取り上げ、わかる喜びを味わわせる。 ・ドリルなどにより家庭学習の充実を図る。 ・「東京ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」、ミライシードを夏季・冬季の補習学習時や朝学習(ぐんぐんタイム)時に活用し、計算力の向上を図る。 		
	高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着を図るために、家庭学習に日々取り組むようにさせる。 ・グループ活動を取り入れ、問題を解決する意欲を喚起する。 ・問題解決型学習を取り入れ、既習事項を駆使して自力解決する力を高めるとともに、みんなで考える活動の中で、解決過程の様々な方法を知って、次の学習に生かせるようにする。 ・個に応じて、習熟の時間を確保し、学習内容を理解できるようにする。 ・ドリルを活用し、繰り返しの学習を行い、必要に応じて小テストを実施し定着を図る。 ・少人数指導担当と担任で情報交換し、児童がどのように学習内容を理解しているのかを共通理解し、指導に生かす。 ・「東京ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」、「ミライシード」を夏季の補習学習時や朝学習(ぐんぐんタイム)時に活用し、計算力の向上を図る。 ・地域未来塾を活用し、長期休業中などに保護者の承諾の元、理解が不十分な児童に対して補習学習を行う。 ・レディネステストの結果を元に、習熟度別クラスを編成し、個に応じたきめ細かい指導を心がける。 		

【 理 科 】 内容および観点別の分析

観点	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
課題	・観察や実験には大変意欲的に取り組んでいる。	・自然事象についての諸々の因果関係を捉え、考えることができています。	・実験の結果を的確に表す力が不十分である。	・概ね良好である。
考察	<p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲をもって観察する取り組みを行っているが、細かく観察することに個人差がある。 ・生き物は好きであるが飼育や栽培などへの取り組みになると個人差がある。 ・考えたことを自分の言葉で表現することが苦手である。 			
	<p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科の専門的な用語を知識として理解力はついてきたが、それらを活用し、解決する力がやや不十分である。 ・多方面から考える視点が身についてきている。 ・観察や実験について、経験の積み重なりから基本的な技能が身に付いていない児童がいる。 ・事柄や現象は理解しているが、原因の説明はやや苦手である。 ・実験結果から、「なぜそうなったのか」など、さらに探究しようという意欲がやや不十分である。 ・既習事項からの類推など、次の学習へ発展的に考えることはやや苦手とする児童がいる。 			
改善策	<p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節ごとに感覚を働かせる観察に取り組む。 ・学級園などの体験できる環境を整え観察の機会をつくる。 ・「なぜ」を大切に自ら解決し、考えたことを自分の言葉で表現する活動を増やす。 ・「東京都ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京都ベーシック・ドリル」、「ミライシード」を学期末や学年末のまとめで活用し、実験・観察を進める際の技能を高める。 			
	<p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中に予想や結果をまとめる活動を取り入れ、科学的なものの見方や考え方を育成していく。 ・既習事項や今までの経験を想起できるような補助発問を通して、言葉で表現できるようにする。また、予想したことを全員発表させることで、うまく表現できなかった児童も考えられるようにする ・話し合い活動を授業の中に意図的に設定し、意見の交流を行うことで、話し合いの型を身に付けさせたり、自分の意見を深めさせたりする。 ・問題→予想→方法→結果→考察という授業の流れを実施する。話し合い活動も取り入れ、ノートに自分の考えを書き、調べてわかったことをまとめるなどの活動を通し、思考力・表現力を伸ばしていく。 ・家庭と連携を図り、日常的に自然界のものに関心をもったり、自然体験を増やしたりするように働きかける。 ・「東京都ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京都ベーシック・ドリル」、「ミライシード」を学期末や学年末のまとめで活用し、実験・観察を進める際の技能を高める。 			

【 社会 】 内容および観点別の分析

観点	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
課題	<ul style="list-style-type: none"> 学習問題に対する調べ学習には意欲的に取り組んでいる。社会的事象について進んで興味をもったり、疑問を感じたりする児童に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象についての知識の習熟に課題があるため、知識をもとにして考えたり、判断したりすることが十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料から内容を読み取るときに必要な情報をつかみ切れていないという課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象についての知識・理解が不十分である。社会的事象の意味の把握にも課題がある。
考察	<p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年が上がるにつれ、学習内容が身近なものから外へ広がるため、興味・関心については、個人差が大きい。 物事を多角的に見るための知識の習熟に課題がある。 資料にある情報と関わりのある内容を見出すことにやや課題がある。 市や都道府県の地理的感覚が十分でない。 基本的な知識の習熟が不十分である。 			
	<p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 新聞やニュースを見ていない児童が多く、社会的事象に対する関心がやや十分でない。 グラフや写真などの資料から、必要なものを調べることは出来るが、そこから社会的な見方や判断をしていくことは、個人によって差がある。 資料から見付けたことや複数の社会的事象を比較・関連付けて思考する力に課題が残る。 都道府県や国の地理的感覚が十分でない。 基本的な知識の習熟が不十分である。 			
改善策	<p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な例を取り上げ、生活体験とつながりをもたせて学習を展開する。 体験的な活動を多く取り入れ、社会的事象とつなげて考えさせる。 簡単な資料を提示して、資料から事実を読み取り、わかったこと・考えたことをまとめる活動に取り組ませる。 学習問題を時間をかけて設定し、主体的に対話的な学びを多く取り入れる。(問題解決型の能動的学習) 地図帳を活用し、地理的感覚を方角やまちの様子、地形の特徴などからより豊かにさせる。 「東京都ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」、「ミライシード」を単元終了後等に活用し、地図記号等の習熟を図る。 			
	<p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 新聞記事やニュースを学習で扱い、社会に目を向けさせる工夫をする。 グラフや表を読み取る学習や資料を活用する学習を適宜取り入れ、事象を読み取り、考えるおもしろさを味わわせる。 既習事項をもとに、学習問題を設定する際、予想を立て、調べまとめる学習を多く取り入れながら、みんなで協力して解決していく活動を取り入れながら、より思考・判断が深められる学習展開につなげる。 社会的な事象と自分の生活と結び付けながら学習を進めることで、社会的事象についての関心を高めていけるようにする。 主体的に考える学習問題を多く取り入れる。(問題解決型の対話的学習) 地図帳や地球儀を活用し、地理的感覚を気候の様子や国の位置関係などからより豊かにさせる。 「東京都ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」、「ミライシード」を単元終了後に活用し、都道府県名や国名等の習熟を図る。 			